

議 事（１）

登別市地域公共交通計画の令和５年度の評価について
（令和５年４月～令和６年３月）

基本方針 1 既存公共交通を基本とした持続可能な公共交通ネットワークの確保

目標① 公共交通の維持を目的とした便数・路線の見直し

目標② ライフスタイルに合わせた公共交通サービスの導入

目標 (令和5年度)	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	令和6年度の取組予定
平日の公共交通利用者 (1便あたり)	平日の1便あたりの利用者の目標達成に向けて、道南バス(株)と検討	交通事業者からデータを提供いただき検証	26.0人/便 達成	コロナが空けたことやダイヤ改正により、平日1便あたりの公共交通利用者数は目標を達成することができた。	今後も、目標達成に向け道南バス(株)と連携を密にする。
22人/便			R2.10.16(金)の乗降データを基準としており、R5.10.16(月)のデータを活用 全利用者数 ÷ 全便数 (1,327人 ÷ 51便)		
グリーンスローモビリティ利用者数 (1便あたり)	持続可能な公共交通体系構築のための路線の検討、高齢者をはじめ各世代に対応した利用促進の検討	委託先事業者からデータを提供いただき検証	平日：2.0人/便 未達成 休日：2.2人/便 未達成	地域住民への周知活動やホテル・旅館の従業員や宿泊客等への周知の出遅れ、広報活動の不十分さにより目標は達成できなかった。	地域住民や観光客のニーズに合わせた利用しやすい時刻表への改正、運行経路の分かりやすい運行形態への見直し、ニーズに応じた乗降箇所の改善、地元商店街やホテル・旅館等との連携による利用促進により、全体の見直しを行う。
平日：4.2人/便 休日：7.4人/便			平日 ・運行日数100日 運行回数9回/日 休日 ・運行日数59日 運行回数28回/日		
人口当たりの公共交通市費負担額	赤字解消策について、道南バス(株)と検討	市の補助額と人口から検証	117円 未達成	地域間幹線系統路線の確保・維持のほか、J Rの時間的接続に配慮した運行体制となるよう、ダイヤ改正や赤字路線の将来について確認・検討が必要。	引き続き、道南バス(株)と赤字路線解消に向けた検討を行う。
110円			R5 補助額 ÷ R5.9月末人口 (5,250千円 ÷ 44,564人)		
グリーンスローモビリティの市負担額	持続可能な公共交通体系構築のための路線の検討、高齢者をはじめ各世代に対応した利用促進の検討	運行経費から運賃収入と地域内フィーダー系統補助金を差し引いた赤字を算出し検証	254万円 未達成	本格導入に際して安全管理の徹底に要する設備体制の充実やメンテナンス活動などに伴う経費と利用者数の伸び悩みにより目標は達成できなかった。	地域住民や観光客のニーズに合わせた利用しやすい時刻表への改正、運行経路の分かりやすい運行形態への見直し、ニーズに応じた乗降箇所の改善、地元商店街やホテル・旅館等との連携による利用促進により、全体の見直しを行う。
135万円			事業費 5,861千円 運賃収入 1,218千円 フィーダー補助 2,104千円		
補助対象路線の経常収支率	経常収支率の改善について、道南バス(株)と検討	道南バス(株)提供資料により検証	56.1% 達成	ダイヤ改正やコロナ収束により目標は達成できたものの、2024年問題の影響など、状況を確認していく必要がある。	引き続き、道南バス(株)と赤字路線解消に向けた検討を行う。
50%			対象路線(5路線) ・室蘭駅前広場～東町ターミナル・鷺～工大 ・東町ターミナル～東室蘭駅西口～若山営業所 ・登別温泉～資料館前 ・登別温泉～カルルス ・東町ターミナル～幌別本町～登別温泉		
グリーンスローモビリティの収支率	持続可能な公共交通体系構築のための路線の検討、高齢者をはじめ各世代に対応した利用促進の検討	委託先事業所からデータを提供いただき検証	20.7% 未達成	本格導入に際して安全管理の徹底に要する設備体制の充実やメンテナンス活動などに伴う経費とお利用者数の伸び悩みにより目標は達成できなかった。	地域住民や観光客のニーズに合わせた利用しやすい時刻表への改正、運行経路の分かりやすい運行形態への見直し、ニーズに応じた乗降箇所の改善、地元商店街やホテル・旅館等との連携による利用促進により、全体の見直しを行う。
60%			運賃1,218千円 ÷ 運行経費5,861千円 × 100		

公共交通説明会等の実施回数	バスの乗り方教室の実施	実施したバスの乗り方教室等を確認する	1 回実施 未達成	7 月のリサイクルまつりで合同開催したため、来場者数が多くなった。さらに 2 回実施できるよう検討が必要。	夏休み期間の実施のほか、町内会、老人クラブ等での実施の検討を行う。
			・約 2,000 人の来場 ・子どもから高齢者まで来場。		
3 回					

基本方針 2 輸送資源の総動員と連携による公共交通の充実

目標③ 乗務員不足に対応した輸送手段の確保 目標④ 既存移動手段を活用した支援体制の構築

目標 (令和 4 年度)	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	令和 6 年度の取組予定
公共交通サービスの満足度	地域公共交通計画の推進	市のまちづくり意識調査等を活用し検証	52.7% 未達成（次回令和 7 年度予定） 「やや不満」「不満」と回答した方は 50 歳代(60.4%)と 60 歳代(49.7%)で過半数に達し、全体で「満足」「やや満足」「普通」と回答した方の割合は 52.7%。	50 歳代と 60 歳代での不満が多かったため、ターゲットを的確に捉えるほか、要因についても把握する必要がある。	目標達成に向けた取組を実施する際に、メインとなるターゲットを考慮する。
5 5 %					
乗務員の確保 4 6 0 人	イベント等を活用し、公共交通のイメージアップと同時に、乗務員確保に取り組む。	交通事業者から年度末の乗務員数を提供いただき検証	3 7 7 人 道南バス(株)R2:366 人 ⇒ 301 人 室蘭ハイヤー(株)R2:69 人 ⇒ 58 人 登別ハイヤー(株)R2:17 人 ⇒ 18 人	各社ともに昨年度よりは若干乗務員数が増加したものの、計画値より大幅に少ない数値となった。 持続可能な公共交通とするため、人員確保や運行効率の向上策の検討が必要。	交通事業者の意向を確認するほか、先行して取り組んでいる自治体での効果を参考に検討を進める。
新たな公共交通サービスの提供（累計）	目標達成しているものの、必要な施策の検討を行う。	協議会で議論した新たな公共交通サービスを確認する。	1 件 達成	取組の実施に際しては、I C Tや民間企業等との連携を含めて検討が必要。	公共交通空白地域の解消に向けた検討において、新たな公共交通サービスの提供も視野に入れる。
1 件			バスロケーションシステムを広域で導入。		

基本方針 3 地域住民・観光客に対する安全・安心な移動支援

目標⑤ 観光客に対応した移動支援 目標⑥ 公共交通空白地域における移動支援

目標 (令和 4 年度)	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	令和 6 年度の取組予定
観光客向けの公共交通支援（累計）	グリーンスローモビリティの本格実施に向けた検討。	協議会で議論した新たな公共交通サービスを確認する。	1 件 達成 ・ R5.4 月本格運行	R6 年度の運行に向け、路線バスとの更なる連携や人手不足に対応できるよう検討が必要。	ゆとりあるダイヤ改正、利用状況に応じた効率化を図りながら、環境にも優しく持続可能な公共交通体系を検討。
1 件					
公共交通の人口カバー率	公共交通空白地域の解消方法の検討。	協議会で議論した新たな公共交通サービスを確認する。	82.3% 未達成	公共交通空白地域の移動支援策の検討のほか、運転手不足から既存交通の維持等について検討が必要。	他の公共交通空白地域も含めて検討を進め、必要に応じて実証実験も検討する。
8 4 %			グリーンスローモビリティが運行開始したものの、路線バスの廃止はなく、人口を R2 国調値を採用したことから、人口減による影響と考えられる。		

登別市地域公共交通計画の令和6年度予定について

1 カルルス路線の効率的な運行の検討

当該バス路線は、カルルス町から上登別町を経由して登別温泉を結ぶバス路線ですが、夏場の利用者数が少ないものの、冬場はサンライバスキー場まで運行するため観光利用があります。

学生の通学利用、買い物や病院等生活の足、観光利用も踏まえて、効率的な運行体制の検討を行います。

2 バスマップの作成

路線バスの利用促進の観点から、手に取りわかりやすくまとめたマップを作成します。

3 バスの乗り方教室

昨年に引き続き、「リサイクルまつり'24 イン登別・白老」で実施を予定しております。

4 第二種運転免許取得支援策の検討

交通事業者では運転手確保が困難になっておりますので、確保の支援策として第二種免許取得支援策について検討を進めます。

5 登別本町地区における公共交通空白地域の検討

昨年度、常盤町・柏木町で市バスを活用した実証実験を実施しましたが、他にも公共交通空白地域があり、その1つである登別本町において、既存交通事業者に配慮した他の手法を活用し実証実験の実施に向け検討を進めます。